

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

精神障害と自殺に関する雑感

太 田 幹 夫

(なんば太田クリニック 院長)

厚労省統計によると2018年の自殺者数は20,840人、ピークであった2004年の34,427人から急速に減少している。自殺率の変動は不況や失業が密接に関連しており、1998年から14年間続いた自殺者数3万人台は、バブル経済崩壊後に津波のように遅れて押し寄せてきたものと分析されている。自殺死亡率の国際比較では統計の信頼性や更新頻度が国によって異なるため単純な比較は難しいが、WHOの調査によると2016年度の我が国の自殺率は先進国の中ではベルギー、フランス、スイスなどと並びトップグループである。我が国の自殺者数は2012年に3万人台を割り、その後は毎年、各年齢層ともに着実に減少しているにもかかわらず10代の自殺者数は横ばいが続いている。男女比はおおよそ2:1、年齢別では50代が最多、80代、70代、40代と続く。自殺原因の半数は健康問題、次に経済・生活問題、家庭問題、勤務問題の順となる。健康問題の内訳は身体疾患が約3割、精神障害が2/3を占める。精神障害別分類では、うつ病(気分障害)60%、統合失調症14%、アルコール依存・薬物乱用3%、その他の精神障害22%であり、2007年のWHOの報告によると気分障害30%、アルコール・薬物等の物質関連障害17%、統合失調症14%、パー

ソナリテイ障害12%となっている。我が国の精神科診断ではうつ病が過剰診断され、アルコール依存症やパーソナリティ障害は過少診断される傾向があるため、WHOの報告との相違が認められる。自殺件数は月別では3月がピークになっており、精神障害の好発時期と一致している。10代では夏休み明け新学期初日の9月1日に突出している。曜日では最もストレスが高いとされている休日明けの月曜日、時間帯では早朝と夕方に多い。

精神疾患は致命的なものではないが、精神障害者の自殺率は高く、自殺全体のおおよそ1/3を占める。精神科医にとって自分の患者が自殺することは最も心を痛めるものである。大抵の精神科医は卒後数年以内に洗礼を受け、自分に落ち度があったのではないかと自身の未熟さを苛む。時には遺族からも責められ、医師としてのアイデンティティが危うくなる。先輩に慰められながらも混乱した感情を真摯に受け止め、精神科医として成長してゆく貴重な体験でもある。

私は13年目にして初めて遭遇した。予てから顔見知りのMRから、その兄の診察依頼を受けた。某上場機械メーカーの財務担当役



員で、盆休みを兼ね東京から帰省していた。眠れない日々が続く、憔悴し、思い詰めた暗い表情であった。わけを尋ねてみると重い口から会社の余剰資金で購入したNTT株が暴落し、莫大な含み損を抱え、来る株主総会の重圧に苦悩しているとのことであった。ともかく薬物治療を開始し、絶対的な休息を求めた。2週間後には表情が和らぎ一息継いだ様子で「これからは居直ってやってゆきます」「失職しても郷里に戻ってまたやり直します」と言い残して上京した。当然ながらその後の治療を東京でも受けることを求めた。3カ月後に新聞の計報欄がふと目に入り、名前、年齢、会社、住所等を確認した。死因が心不全と記されていた。特段の身体的疾患はないと聞いていたので不吉な予感に襲われた。数日後に例のMRが現れ、自死の報告を受けた。

以後、知る範囲内において自殺または不審死が30例近く経験している。精神科医としての自尊心はズタズタに裂かれたが、得るものも多くあった。長年通院していた患者もあれば数回の診察で死なれたものもある。多忙で余裕のない診療をしていると自殺の兆候を見落としてしまう。自殺の兆候を察知した時には引き留めるために診療に時間と労力を費やす。自殺の危険性が高い場合は家族と共に話し合うことを求めるが、家族に心配をかけたくない当人は守秘義務を求める。自殺の危険性が高くサポート体制のない場合は入院を勧めるが、それでも完全に防止できるわけではない。数秒のスキがあれば達成できる。また周囲に全くその兆候を見せず遂行する場合もある。強い意志をもって一途に計画的に決行しようとする人、死ぬか生きるか惑いながら自殺手段を選択する人、出勤するつもりが目の前の電車に急に自殺衝動が生じ実行する人など自殺者の心理は複雑である。精神科ではこのような行動や衝動を抑えるために鎮静系の向精神薬を使用するが、同薬の大量服薬を繰り返す迷える患者も絶えず、救急医には散々迷惑をかけている。昨今は薬局でも投薬量や投薬日数をチェックしているのでそのようなケースも減少していると聞くが、幸い

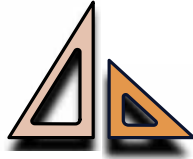
にも使用した向精神薬の大量服薬にて致死に至ったことはない。

数年来通院しているうつ病患者が急に来院した。大企業の工場現場の中間管理職として従事し、高度成長期にノンキャリアながら異例の出世を果たした男性である。うつ病になってからは休職を続け、度々自殺未遂を繰り返し、寸前のところで踏みとどまっていた。事情を聴くと明日から旅行に出ると言う。妙に明るく振る舞っており、特段の根拠はないものの普段とは異なる雰囲気を感じた。他愛ない世間話をしながら旅先や旅の行程を訪ねているうちに急に泣き出し「分かりました先生のお見通しの通りです」「死に場所を求めて出かけるつもりでした」「もう断念します」と。その後もうつ病は持続したが、次第にある種の穏やかな諦念の境地に至り、以後は早期退職して病弱な妻を支え、その最後を看取り、40年後の現在は孫ひ孫に囲まれて好々爺として暮らしている。

自殺願望の強い患者と接するときには、精神医学のみならず哲学、宗教、文学、芸術など広い分野の識見が求められ、精神科医としての器量が問われているような気がする。



理事会報告



◎令和元年度 8 月定例理事会

日 時 令和元年 8 月 24 日〈土〉

午後 5 時～6 時 20 分

場 所 シェラトン都ホテル大阪

協議事項

1. 第 45 回ナニワ区民まつりへの医師派遣
依頼と協賛金について <澤井会長>
今年度も医師派遣と協賛金の依頼があっ
た。

詳細は次のとおり。

日時 10 月 6 日〈日〉 午前 10 時 30 分～
午後 3 時 30 分

場所 浪速スポーツセンター 3 F

協議の結果、例年どおり、会員より募
集することとなった。

また、協賛金についても了承。

2. 郡市区等医師会働き方改革労務関連 会
長・担当理事・事務局合同研修会への出
席者について <澤井会長>
標記研修会への出席者を決めたい。

日時 9 月 11 日〈水〉 午後 2 時～4 時

場所 府医 2 F

協議の結果、澤井会長と富永理事が
出席することとなった。

3. 健活おおさか推進府民会議 2019～日本
健康会議 in 大阪への参加依頼について
<澤井会長>

標記会議への出席者（5 名）を決めたい。

日時 9 月 13 日〈金〉 午後 1 時～午後 4 時
30 分

場所 大阪市中央公会堂 大集会室

協議の結果、会長、副会長、佐久間
監事が出席することとなった。

4. 「医療データの情報銀行」にかかる実証
事業への参加依頼について

<久保田副会長>

これは大阪大学医学部附属病院、三井住
友銀行、日本総合研究所が取り組んでい
る事業である。

情報銀行とは、個人の契約に基づき、個
人の為にパーソナルデータを管理し、個
人の意思に基づきデータの利活用を行う
事業のことであり、医療データの情報銀
行とは、情報銀行の考え方に則り、医療
データを個人に返し、個人の意思に基づ
き、医療データの共有や利活用を行う
事業のことである。この事業に本会のブ
ルーカードシステムを利用した実証実験
を実施しないかという依頼があった。

協議の結果、実証実験に参加する方向
で検討することとなった。

5. Acrobat Standard DC の導入について

<久保田副会長>

事務局より Acrobat Standard DC の導入
希望（月額 1380 円税別）があった。
事務局が導入していた「いきなり PDF」
が不具合により使えない状態となったた
め、販売している「ソースネクスト」と
不具合について何度も検証を行ったが改
善されず、返金されたとのことである。

協議の結果、了承。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

（8 月 23 日〈金〉）

<澤井会長>

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷連絡事項

（1）検診・健診に関する件

-
- (2) 大阪府医師確保計画及び外来医療計画に関するアンケート調査の件
- (3) 郡市区等医師会働き方改革労務関連会長・担当理事・事務局合同研修会開催
- (4) 9月度行事・会合日程の件
- (5) その他
- ▷協議
- ▷閉会
- (詳細 略)
2. 災害時における連携に関する打合せ会について
- (8月21日<水>) <澤井会長>
- 次第は次のとおり。
- ▷災害時における連携内容についての申合せ事項(改訂案)について
- ▷浪速区の災害時医療救護体制について
- ▷浪速区の今年度の防災活動について
- ▷今後の課題について
- ▷その他
- (詳細 略)
3. 自立支援型ケアマネジメント検討会議について
- (8月8日<木>) <有田副会長>
- 次第は次のとおり。
- ▷検討会議の趣旨について
- ▷守秘義務について
- ▷出席者の自己紹介
- ▷検討事例
- ▷まとめ
- (詳細 略)
4. 学術講演会について
- (5月18日<土>) <富永理事>
- 講演内容は次のとおり。
- 演題 嚥下造影検査の意義について
～脳血管障害、パーキンソン病を中心に～
- 講師 富永病院 内科・リハビリテーション科 陶山 昭彦 先生
- 出席者数 32名
- 共催 大塚製薬株式会社
- 情報提供 新規酸分泌抑制剤タケキャブ錠について
- (詳細 略)
5. 第40回 FacetoFace の会世話人会について
- (6月22日<土>) <木田理事>
- 次第は次のとおり。
- ▷世話人紹介
- ▷今年度の「FacetoFace の会」の日程について
- ▷世話人会議事録報告
- ▷第39回「FacetoFace の会」報告
- ▷第40回「FacetoFace の会」について
- ▷その他
- (詳細 略)
6. 大阪中央地域産業保健センター運営協議会について
- (7月18日<木>) <木田理事>
- 次第は次のとおり。
- ▷大阪中央地域産業保健センター長挨拶
- ▷大阪中央労働基準監督署長挨拶
- ▷令和元年度地域産業保健事業について
- ▷大阪中央労働基準監督署
- ▷その他
- (詳細 略)
7. 浪速区学校保健協議会役員・理事会について
- (7月4日<木>) <中村理事>
- 次第は次のとおり。
- ▷全大会(総会・研修会)について
- ▷令和元年度予算・事業計画について
- ▷その他
- (詳細 略)
8. 第1回郡市区医師会学校保健担当理事連絡協議会について
- (7月11日<木>) <中村理事>
- 次第は次のとおり。
- ▷開会
- ▷挨拶
- ▷協議事項

- (1) 令和元年度学校医部会事業計画の件
- (2) その他
- ▷報告事項
- (1) 平成 30 年度会務報告の件
- (2) 指定学校医制度認定・更新状況の件
- (3) 学校保健に関するアンケート調査の件
- (4) 大阪府私立幼稚園等特別支援教育費補助金に係る障がいの判断基準の件
- (5) 文部科学省学校保健総合支援事業(大阪府)の件
「一人ひとりの生と性」～性に関する指導について～
- (6) 小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドラインの件
- (7) その他
- ▷閉会

(詳細 略)

9. 浪速区要保護児童対策地域協議会代表者会議について

(8月22日〈木〉) <中村理事>

次第は次のとおり。

- ▷会長あいさつ
- ▷要保護児童対策地域協議会について
- ▷浪速区の子育て支援等の取り組みについて
- ▷関係機関からの報告等

(詳細 略)

10. その他

- (1) レクリエーションの出席人数について <川田理事>

現在までに、25名の申し込みがあった。

(詳細 略)

次回理事会

令和元年9月24日〈金〉 午後8時～

10 月度学術講演会のお知らせ

10月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：令和1年10月19日〈土〉

午後2時～4時

場所：一般社団法人浪速区医師会 会議室

演題：「糖尿病性腎症重症化予防を目指した血糖降下薬の選択を考える」

講師：日本生命病院

糖尿病・内分泌センター長

住谷 哲 先生

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。



浪速区在宅医療・介護連携相談支援室 からのお知らせ

8月の相談件数は3件でした。病院の地域連携室と地域包括支援センターからかかりつけ医を探してほしい依頼と、退院した方が自宅に戻られていないので何処に連絡すればよいのかとの問い合わせでした。

北ブロックの退院支援にかかる多職種研修会8月3日（土）淀川区民センターホールに行ってきました。東ブロック（浪速区）は10月5日（土）リゲッタIKUNOホール（旧生野区民センター）の予定です。

在宅医療、介護において何か困ったことや問い合わせ等ありましたらご連絡ください。よろしくお願いします。



相談受理実績

■ 個別ケースに関する相談（R1.8月度）

① 医科	0件
② 歯科	0件
③ 薬局・薬剤師	0件
④ 病院 地域連携相談室	1件
⑤ 訪問看護	0件
⑥ 介護支援専門員	0件
⑦ 地域包括支援センター	2件
⑧ ⑥⑦以外の介護関係事業所	0件
⑨ 認知症初期集中支援チーム	0件
⑩ 他区在宅医療・介護連携支援室	0件
⑪ 区役所・保健福祉センター	0件
⑫ 区民	0件
⑬ その他（ ）	0件
合 計	3件

■ 相談内訳（重複有）

① 医 療	① 診療所・医師に関して	2件
	② 訪問診療できる医療機関に関して	2件
	③ 病院（入院・転院先等）に関して	0件
	④ 歯科に関して	0件
	⑤ 薬局・薬剤師に関して	0件
	⑥ 訪問看護に関して	0件
	⑦ 医療の手続きに関して	0件
	⑧ その他	1件
② 介 護	① ケアマネに関して	0件
	② 地域包括支援センターに関して	0件
	③ 介護事業所等に関して	0件
	④ 介護の手続きに関して	0件
	⑤ その他	0件
	③ 退院支援に関して	0件
	④ 看取りに関して	0件
	⑤ その他（内容： ）	0件
	合 計	5件

<お問合せ> 浪速区在宅医療・介護連携相談支援室
〒556-0022 大阪市浪速区桜川 4-11-16 アリタビル50B
TEL:070-1760-4964 FAX:06-6567-8058



浪速区医師会 活動の伝言板

令和元年10月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3歳児健康診査

●保健福祉センター

10月24日(木)午後1時40分～3時30分

小児科 川田 信哉

眼科 山尾 信吾

耳鼻科 大野 聡史

1歳6ヶ月児健康診査

●保健福祉センター

10月3日(木) 午後1時40分～3時30分

橋村 夏野子

BCG接種

●保健福祉センター

10月17日(木) 午後2時～3時30分

北村 栄作・橋村 夏野子



ドクターのあらゆる要望にお応えします。



大阪府医師協同組合
Osaka Medical Cooperative Association

[本部] 大阪市中央区上本町西 3-1-5 〒542-8580
TEL 06-6768-2071(代) FAX 06-6768-2012

[南部出張所] 堺市堺区甲斐町東 3-2-26 堺市医師会館 1F 〒590-0953
TEL 072-223-6081(代) FAX 072-223-5094

さまざまな事業を展開しています。

詳しくは



医 業

医療機器、医療消耗品からクリニック開業支援まで、医療に関する幅広いサポートを行っています。

- 医療用品通販カタログ「GoodS」
- 最新医療機器カタログ「ME GUIDE」
- 医療機器のリース・無金利分割販売
- 最新医療機器展示会、セミナー・実技講習会



く ら し

趣味や教養を深めるイベントから旅行、住まいのご相談まで、皆様のプライベートを応援。

- JAPAN DOCTOR'S CARD
- 書籍販売サイト「KNOWLEDGE WORKER」
- ドクターズツアー、パッケージツアーの割引特典
- イベント・各種セミナーの開催



保 険

医療とくらしを取り巻くさまざまなリスクに備え、充実のラインナップをご用意しております。万一の事態に備える保険に、団体・集团扱いの割安な掛け金でご加入できます。

- 損害保険
- 生命保険



あとがき

藤吉 理夫

★暑いながらもやっと秋らしい風を感じるようになりました。昨年9月は大きな台風が2つやってきました。当院の患者さんで家が壊れたため転居された方、屋根の修繕費用が高額であるためビニールシートの応急手当で過ごされている方もいらっしゃると思います。

本年は千葉が大きな被害を受けています。心よりお見舞い申し上げます。

★太田先生の巻頭言はずっしりこたえました。

我が国の自殺者数は一時より減っているが自殺率は先進国の中では未だトップグループである。原因の半数は健康問題で、年齢は50代>80代>70代>40代の順であるとのこと。80代70代が2、3位には驚きました。まれに外来通院中の独居老人が自宅でお亡くなりになっていて警察から病状問い合わせがあることがあります。最終受診日は明らかにお元気でいつもと変わらない状態であると、こちらでは死因は予想できません。解剖の結果は連絡いただけないのでわかりませんが、その中に自殺の方もいらっしゃるのかもしれない。先生は普段とは異なる雰囲気を感じて、他愛ない世間話から自殺企図があった患者さんの心を開いて助けられました。素晴らしいです。

「多忙で余裕のない診療をしていると自殺の兆候を見落としてしまう」という言葉は我が身に刺さりました。自殺でなくても思いもよらぬ疾患が隠れていることを見落とす可能性があります。余裕のある診療を心がけたいです。

★在宅で見ている高齢者、末期患者さんから、もう死にたい、先生死ぬる薬ちょうだいなどと言われることがあり、何か希望になる話をしようと思いますが返答に難渋することがあります。先生が書いておられるように、哲学、

宗教、文学、芸術など広い分野の識見がACP（人生会議）でも求められるのだと思いました。私はそのような知識が不足しているので、最近少しコミュニケーションがとれてから患者さんのやってこられたお仕事についてお話を聞くようにしています。ある方は若い頃鳶の仕事をしておられて本州—四国橋の建設に携わったと、頑張っていたことを懐かしんで楽しげにお話しされました。この時非常に穏やかな良い表情をされました。自身がやってきたことの中で何か心の支えになるものがあれば少しでも前向きになれるのではと考えています。

★さて、ラグビーワールドカップが9月20日から始まります。

前回日本は南アフリカに対し奇跡的な勝利を収めましたが残念ながら予選敗退でした。今回は必ず突破できると信じています。私も10/5 日本対サモア戦を観に行く予定です。



目 次

ページ

巻 頭 言

精神障害と自殺に関する雑感

太田 幹夫 1

理事会報告（8月開催） 3

10月度学術講演会のお知らせ 5

浪速区在宅医療・介護連携相談支援室からのお知らせ 6

浪速区医師会活動の伝言板 7

あとがき 8

【区医だより】

発行者 澤井貞子

編集者 中村泰久 藤吉理夫

印刷所 株式会社 サ ビ